第六十回記念

日本舞踊協会公演

美しい日本、
美しい舞踊。

— 現代を代表する一流舞踊家による日本舞踊公演 —

国立劇場 大劇場

東京都千代田区隼町4-1 (電話)03-3265-7411

2017 2月17日(金) 18日(土) 19日(日)

【17日(金)】夜の部のみ / 【18日(土)、19日(日)】昼夜2回 計5回公演

[開演] 昼の部:午前11時 / 夜の部:午後4時30分 ※開場30分前

Thanks for 60th

2017 都民芸術フェスティバル 参加公演

The Japanese Classical Dance Association
公益社団法人 日本舞踊協会

第六十回記念
日本舞踊協会公演

昭和三十一年に第一回を開催した日本舞踊協会公演。今回六十回の記念公演を迎えます。

古典舞踊の名作、大作はもちろん、近現代の名人や若手舞踊家による振付作品、そして上方舞まで日本舞踊のさまざまな姿をご覧に入れます。出演は若手から重鎮まで現代を代表する日本舞踊家たち。協会公演ならではの群舞、共演、競演にご注目ください。

そして今回は六十回記念の企画作品として各回で「にっぽん ―まつりの四季―」を特別上演。日本各地の〈まつり〉をモチーフに、日本の四季の中で生きる、日本人のこころと姿を描き出します。

長い伝統の中で、脈々と受け継がれてきた日本舞踊の《今》の息吹きを是非ご鑑賞ください。

Thanks for 60th

第六十回記念作品

創作「にっぽん ―まつりの四季(しき)―」

※各回上演

瑞穂の国日本、移ろい行く四季の国日本、美しく色鮮やかな日本、この小さな島国日本は春・夏・秋・冬の気候の変化に順応し、植物・生物も生滅を繰り返し人間と共生してきました。いや、そればかりか神も霊魂も、年中行事という民俗文化の中で太古から共に生きてきたのです。

『にっぽん』の四季と年中行事を、稲作と共に生きてきた我ら日本民族の一生と一年を、日本舞踊で表現してみようという試みです。

作・織田紘二

［出演者］

旭七彦、吾妻寛穂、吾妻豊太郎、泉彩菜、泉徳右衛門、泉徳保、泉秀樹、五條詠絹、五條珠太郎、中村梅、西川一右、西川扇左衛門、西川扇重郎、西川扇千代、西川扇衛仁、花ノ本海、花柳和、花柳克昂、花柳喜衛文華、花柳貴柏、花柳吉史加、花柳錦翠美、花柳寿紗保美、花柳輔蔵、花柳寿々彦、花柳寿美琴音、花柳静久郎、花柳園喜輔、花柳近彦、花柳ツル、花柳寿華、花柳昌克、花柳昌鳳生、花柳路太、花柳楽人、林千永、坂東里子、坂東映司、坂東映舞、坂東朋奈、坂東はつ花、坂東三津映、藤蔭静千華、藤蔭里燕、藤間京之助、藤間小太郎、藤間駒季、藤間爽子、藤間翔央、藤間仁凰、藤間聖衣曄、藤間鶴熹、藤間豊彦、藤間直三、藤間秀曄、藤間裕太郎、藤間眞白、藤間蘭翔、水木紗那、水木優翠、若見匠祐助、若柳薫子、若柳吉應、若柳吉優、若柳公子、若柳里次朗、若柳三十郎、若柳美香康、若柳庸子

（十七日夜）（十八日昼）（十八日夜）（十九日昼）（十九日夜）

坂東勝友、勝美延三、坂東百々三、藤間豊之助、橘芳慧

［スタッフ］

作・構成　織田紘二
演出　尾上菊之丞
作曲　本條秀太郎
振付　西川大樹、花柳せいら、花柳達真、坂東三信之輔、藤間仁章
監修　織田紘二、古井戸秀夫
企画　吾妻徳穂、井上八千代、尾上墨雪、藤間藤太郎、若柳壽延

17日(金) 夜の部

一、清元「四季三葉草(しきさんばそう)」

翁　西川扇蔵
千歳　中村梅彌
三番叟　尾上墨雪

高い格調の中に日本舞踊らしい艶やかさと軽妙さを味わえる「四季三葉草」。四季の草花や樹木を詠み込んだ粋な清元の名曲にのせて、60回記念公演初日の幕開きを寿ぎます。

二、義太夫「妹背山道行(いもせやまみちゆき)」

橘姫　花柳幸舞音
求女　花柳寿美藏
お三輪　花柳智寿彦

一人の若者に想いを寄せる高貴な姫と情熱的な町娘の物語。恋する想いを苧環(おだまき)の糸に託して三人の恋模様が描かれます。色彩的な美しさも魅力の歌舞伎舞踊です。

三、長唄(録音)「洛中洛外(らくちゅうらくがい)」

音羽菊蝶　山村若有子
猿若英晃　若柳延祐
西崎美絵　若柳吉恵三寿
花柳旭叟　若柳左千世
坂東藍乃　若柳佑輝子
藤間勘祐悟　若柳竜公
藤間巡子

季節の移ろいを色濃く感じる京の都。屏風絵「洛中洛外図」を題材に、祇園祭や壬生狂言、地蔵盆など京都の風物を綴った作品です。京の四季を情緒豊かに写し出します。

作詞・柴崎四郎　作曲・十四代杵屋六左衛門
振付・若柳壽延

四、長唄「三人連獅子(さんにんれんじし)」

親獅子　楳茂都扇性
母獅子　山村光
子獅子　花柳源九郎

父母と子の愛情を細やかに描く連獅子で、通称「楳茂都連獅子」とも呼ばれます。片岡愛之助が楳茂都流家元、三代目扇性として出演。親子三人による毛振りは華やかさたっぷりです。

振付・二世楳茂都扇性

五、地歌「邯鄲(かんたん)」

井上八千代

能の「邯鄲」の一部を下敷きに、末永く栄華を極める国土の様子を舞にした作品。端正で緊密な中にも柔らかみのある舞姿に、京舞井上流ならではの美が凝縮されています。

六、創作「にっぽん ―まつりの四季(しき)―」

18日(土) 昼の部

一、長唄「翁千歳三番叟」

翁　松本幸四郎
千歳　藤間藤太郎
三番叟　松本錦升

各日の序開きを飾る〈三番叟〉、趣を変えて二日目は長唄です。天下泰平、五穀豊穣をおごそかに祈る演目に重ね合わせて、日本舞踊協会と日本舞踊界の伝統と未来を祝します。

二、地歌「古道成寺」

清姫　吉村輝章
安珍　山村友五郎

上方舞を代表する吉村流家元と山村流宗家の共演が話題。道成寺ものの中でも最古の曲と言われる本曲。ほどいた帯を蛇体に見立てるなど、趣向に富んだ振り付けが見所です。
振付・吉村雄輝

三、常磐津「釣女」

大名　若柳彦三衛門
太郎冠者　花柳昌太朗
上臈　藤間掬穂
醜女　藤間秀嘉

大名にならって美女が釣れたと浮かれる太郎冠者。衣をとってみたら獲物はなんと醜女…。迫る醜女、逃げ回る太郎冠者のやりとりもにぎやかな、人気の狂言舞踊です。

四、長唄「七騎落」

土肥次郎實平　西川箕乃助
船長　西川扇二郎
土肥遠平　若柳里次朗
源頼朝　市山松扇
頼朝の家臣　吾妻豊太郎
花柳登貴太朗
藤間達也
松風光陽
若柳吉應

落ち延びる武士たちを待ち受ける過酷な運命。極限の選択を迫られる實平の、わが子への愛と主君への忠義を壮絶に描きます。文化庁芸術祭賞を受賞した当代西川扇藏振付の傑作です。
作詞・海津勝一郎　作曲・杉浦弘和
振付・西川扇藏

五、清元「喜撰」

喜撰　花柳基
お梶　水木佑歌

六歌仙の一人、喜撰法師が飄々と愛嬌のある坊主として登場します。法師が通う相手は祇園の茶汲み女お梶。二人の色事を、粋で軽妙な味わいで見せる洒落た踊りです。

六、創作「にっぽん ―まつりの四季―」

18日(土) 夜の部

一、箏曲「月彩」

五條詠佳　花柳秀衛
西川申晶　花柳奈卯女
花柳和あやき　藤蔭静寿
花柳笹公　藤間藤椛

月にまつわる様々なイメージを、箏と打楽器による多彩な響きで奏でます。曲に触発された花柳寿南海が広大な宇宙を着想して振り付け、楽曲と舞踊の融合が美しい作品です。
作曲・米川敏子　作調・高橋明邦
振付・花柳寿南海

二、常磐津「上「駕屋」下「雷船頭」」

駕屋　猿若清三郎
犬　堀越瑛貴
女船頭　藤間洋子
雷　尾上菊透

江戸の市井に生きる粋な人物を描く常磐津二題。軽妙な面白さが魅力です。
「駕屋」はいなせな駕籠かきが登場。弁当を盗もうとする犬を相手に洒落っ気たっぷりに踊ります。同じく粋な女船頭が主人公の「雷船頭」。こちらは落ちてきた雷を相手に踊るという奇抜な趣向です。
振付・二代目猿若清方(駕屋)
振付・藤間勘祖(雷船頭)

三、長唄「一人の乱」

安倍宗任　花柳寿楽
源頼義　若柳吉蔵

反乱を起こした安倍一族とその討伐を命じられた源頼義。敵同士ながらも認め合う二人の武士が最後に辿りつくのは…。人間国宝でもあった先代壽楽作品の中でも屈指の名作です。
作詞・海津勝一郎　作曲・七代目杵屋巳太郎
振付・二世花柳壽楽

四、長唄「二人道成寺」

花子　尾上紫
桜子　市川ぼたん
所化　尾上菊透　花柳楽人
五條珠太郎　藤間豊彦
西川一右　藤間直三
花柳克昂　藤間裕太郎
花柳寿々彦　若見匠祐助
花柳近彦　若柳三十郎

あまたの踊り手を魅了し、あまたの観客に愛される舞踊の最高峰「京鹿子娘道成寺」。
その道成寺を二人で踊る「二人道成寺」。二人ならではの華やかさと豪華さが舞台いっぱいに繰りひろげられます。

五、創作「にっぽん ―まつりの四季―」

19日(日) 昼の部

一、一中節「三番叟（さんばそう）」
翁　花柳壽應
千歳　吾妻徳穂
三番叟　花柳輔太朗

60回記念公演最終日の序幕を飾るのは一中節の「三番叟」。古曲と言われる一中節らしいおおらかさと洗練さを併せもつ曲です。60回記念を祝し今回は新振付にてご覧にいれます。
振付・二代花柳壽應

二、長唄「水仙丹前（すいせんたんぜん）」
若衆　花柳典幸
遊女　藤蔭静枝
吾妻節穂
泉翔蓉
坂東以津緒

若衆と遊女の五人で踊る、目にもあざやかな「水仙丹前」です。水仙の花の姿や若衆振り…、歌詞にも唄われているように歌舞伎舞踊らしい美しさで舞台を彩ります。
振付・藤間藤太郎

三、清元「吉原雀（よしわらすずめ）」
男　藤間勘次
女　花柳眞理子

吉原雀とは、廓の事情に通じた通人のこと。舞台は江戸吉原で、理屈抜きに廓気分を味わえる一番です。男女の〈放ち鳥売り〉が、粋で艶っぽい廓遊びの雰囲気を様々に見せる、変化に富んだ演目です。

四、長唄「勝三郎連獅子（かつさぶろうれんじし）」
親獅子　尾上菊之丞
仔獅子　花柳壽輔

杵屋勝三郎作曲の連獅子で、内容は他と同じく獅子の子落とし伝説を基にしています。素踊りながらダイナミックな勇壮さが特徴で、仔獅子の激しい振りも大きな見所です。
振付・初代花柳壽輔

五、長唄「江島生島（えじまいくしま）」
江島・江島に似た海女　花柳寿美
海女　花柳大日翠
生島新五郎　猿若清方
若柳薫子
旅商人　若柳宗樹
若柳美香康

江戸時代の実話を基にした、大奥の女中・江島と歌舞伎役者・生島の身分違いの哀しい恋を描きます。流刑となった生島の夢から始まり、また江島と江島に似た海女を一人で演じ分けるなど、演出的にも工夫された舞踊劇です。

六、創作「にっぽん ―まつりの四季（しき）―」

19日(日) 夜の部

一、清元（録音）「海と空（うみそら）」
西川扇左衛門　花柳静久郎
西川扇重郎　花柳昌克
西川扇衛仁　花柳昌鳳生
西川大樹　藤間仁凰
花柳輔蔵　若柳吉優

自然界の海（波）と空（風）の争いを、男性舞踊家による素踊りでダイナミックに描きます。実は人の世の欲の争いを皮肉るという作者の隠された意図もある異色作です。
作詞・青木以佐夫　作曲・松原奏風
振付・花柳輔太朗

二、一中節「石橋（しゃっきょう）」
寂照法師　松島金昇
山人　花柳寿太一郎
獅子　泉秀樹
花ノ本海
藤間章吾

能の「石橋」を下敷きにした〈石橋もの〉の一つで、一中節の名曲として知られています。高い格調の中に、しっとりとした情趣や獅子のくるいも織り込まれた魅力の一番です。
振付・藤間藤太郎

三、常磐津「粟餅（あわもち）」
花柳翫一
藤間仁章

にぎやかに現われるのは江戸の町の粟餅屋、威勢よく餅をついて売り歩きます。江戸の町の風景がよみがえるような、うきうきとした気分にあふれる軽やかな踊りが楽しめます。

四、長唄「阿吽（あうん）」
若柳壽延
藤間蘭黄

浅草寺仁王門の金剛力士像、阿形と吽形。娘や飛脚の願に耳を傾け、はたまた相撲の取り組みまで始めるという痛快な作品。名手・三世長十郎による曲も聞き逃せない一番です。
作詞・石川潭月　作曲・三世今藤長十郎
振付・若柳壽延

五、義太夫長唄「浜松風（はままつかぜ）」
小藤　藤間恵都子
此兵衛　西川扇与一

舞台は須磨の海岸。松風の怨念が乗り移った小藤に、此兵衛がからみます。古風でおおどかな雰囲気が魅力の演目で、特に派手な立ち廻りで見せるきまりの見得の数々が見所です。

六、創作「にっぽん ―まつりの四季（しき）―」

演奏

《長唄》
「三人連獅子」「一人の乱」「二人道成寺」「勝三郎連獅子」「阿吽」
今藤長一郎（唄）
杵屋栄八郎（三味線）

「翁千歳三番叟」「水仙丹前」「江島生島」「浜松風」
杵屋勝四郎（唄）
杵屋栄八郎（三味線）

「七騎落」
杵屋勝四郎（唄）
杵屋五吉郎（三味線）

《清元》
「四季三葉草」「喜撰」「吉原雀」
清元美寿太夫（浄瑠璃）
清元美治郎（三味線）

《常磐津》
「釣女」「駕屋」「雷船頭」「粟餅」
常磐津一佐太夫（浄瑠璃）
常磐津文字蔵（三味線）

《義太夫》
「妹背山道行」「浜松風」
竹本葵太夫（浄瑠璃）
豊澤淳一郎（三味線）

《一中節》
「三番叟」「石橋」
都一桜（浄瑠璃）
都一中（三味線）

《地歌》
「邯鄲」「古道成寺」
富山清琴

《箏曲》
「月彩」
米川敏子（箏）
高橋明邦（打楽器）

《囃子》
堅田喜三久

《録音音源による上演演目》
「洛中洛外」「海と空」
「にっぽん ― まつりの四季 ―」

【チケット料金】 1等9,000円（指定席）/ 2等6,000円（指定席）/ 3等2,000円（自由席）

【前売り開始日】 平成28年12月20日（火）10時より

【各種割引】 障害者割引：1等・2等を2割引（1等7,200円 / 2等4,800円）
※ お申し込みは協会事務局まで（電話 03-3533-6455 info@nihonbuyou.or.jp）
25歳以下割引：当日会場受付にてお一人様 500円キャッシュバック（1等、2等限定）
※ 前売・当日売に関わらずキャッシュバックいたします。
※ 当日年齢が確認できる証明書を日本舞踊協会受付でご提示ください。

【チケット取扱】
■ ヴォートルチケットセンター
電話：03-5355-1280（有人対応 平日10:00～18:00）
■ 電子チケットぴあ
電話：0570-02-9999（Pコード：455-206） インターネット予約 http://t.pia.co.jp
■ 国立劇場チケットセンター（窓口取扱いのみ）
東京都千代田区隼町4-1 電話：03-3265-7411

【主催・お問い合わせ】 The Japanese Classical Dance Association 公益社団法人 日本舞踊協会 03-3533-6455（平日10時～17時） 【後援】 NHK

Official Instagram